

# 日本ペスタロッチャー・フレーベル学会

## 第38回大会 プログラム

2021年9月4日(土)

文教大学を大会校とするオンライン開催

### I 日程

9月4日(土)	
Zoom 入室開始	9:15
自由研究発表	9:30~11:00
総会	11:10~12:10
昼休憩	12:10~13:30
シンポジウム	13:30~16:30

### II 実施方法・発表時間

Zoomによるオンライン開催

【発表時間】自由研究発表は、1人25分、質疑応答5分です。

### III 大会参加費

大会参加費は、徴収しません。

### IV 大会事務局

日本ペスタロッチャー・フレーベル学会 第38回大会実行委員会

〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337  
文教大学教育学部 豊泉研究室

E-Mail: toyo@bunkyo.ac.jp

TEL: 048-974-8811 (内線 2897 豊泉研究室)  
(内線 2890 教職課程準備室)

FAX: 048-974-8962 (教職課程準備室)

委員長: 豊泉清浩 (文教大学)  
委員: 佐久間裕之 (玉川大学)  
中島朋紀 (鎌倉女子大学短期大学部)  
山口圭介 (玉川大学)

<自由研究発表> 9:30~11:00

司会 大沢 裕 (松蔭大学)  
山口圭介 (玉川大学)

9:30~10:00

明治・大正期のキリスト教主義幼稚園における保守進歩派ハリソンの影響

野尻美枝 (浦和大学)

10:00~10:30

社会科と長田新

—長田新における道德教育論の前史解明—

松原岳行 (九州産業大学)

10:30~11:00

総括討論

<総会> 11:10~12:10

<シンポジウム> 13:30~16:30

題目: 幼小連携の教育実践について考える

司会 椋木香子 (宮崎大学)  
豊泉清浩 (文教大学)

趣旨説明

豊泉清浩 (文教大学)

提案1：幼小連携・接続におけるカリキュラム研究

—道徳性を培うためのカリキュラム実践を中心として—

中島朋紀（鎌倉女子大学短期大学部）

提案2：幼小接続をめぐる3つの学校園の研究の足跡に学ぶ

—『幼小接続資料集成』編集作業を通して—

太田素子（和光大学名誉教授）

提案3：カリキュラム研究からみた幼小接続と教師教育

浅野信彦（文教大学）

<趣 旨>

今日、幼児教育と小学校教育の連携が理論と実践の両面において注目されている。幼小連携に関する研究や実践が本格的に始まったのは、1989年の幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領改訂以降のことである。それは、幼稚園の教育課程における6領域から5領域への再編と小学校における生活科の新設が契機となった。いうまでもなく、幼小連携の理念と実践は、本学会創設の理念であるペスタロッチーとフレーベルの教育遺産、とりわけ教育思想と教育実践を継承し発展させることに関連している。

ペスタロッチーは、居間の教育として家庭教育を重視し、初等教育を家庭の延長と捉え、基礎陶冶の理念を提唱した。基礎陶冶の理念は、人間の心情、精神、技術の諸能力と諸素質とを合自然的に発展させ、形成する理念である。基礎陶冶の手段は、「生活が陶冶する」という高尚な原則と固く結びつき、その拡充に際して、一般に家庭生活の合自然的な陶冶過程から生じていく。

フレーベルも、家庭と学校の連携を重視し、学校は家庭生活の延長であると考えていた。幼稚園は、保育者や幼児教育の指導者を養成するとともに、家庭生活を充実させ、家庭を援助する意図を持っていた。特に、晩年の媒介学校の構想は、幼稚園教育と学習学校をつなぐ試みであり、今日の幼小連携の先駆的な考え方と見ることができる。

そこで本学会第38回大会では、新型コロナウイルス感染拡大という大変厳しい状況の中で、幼小連携について、幼小連携の理念と歴史、幼小接続カリキュラム、幼小連携の教育活動等の観点から、どのような点に課題があり、今後どのように展開していけばよいかを論じた。